

平成 30 年度 第 7 回 SD 研修会報告

内 容	教学マネジメントとは何か～事務職員に求めるもの～
日 時	平成 30 年 12 月 25 日 (火) 13:00～14:30
場 所	宮崎学園短期大学 会議室
進 行	蓑部氏 (短期大学 SD 担当)
出席者	Staff 5 人 (別紙参加者名簿)
議 事 内 容	
<p>講師：山下恵子 理事長</p> <p>6 テーブルに各 4～6 名がグループ討論をする形式で座った。</p> <p>1) 導入の話から、配布プリント 1 の 1. 大学運営で使われる用語について、各自が知っているかを確認する記入作業をした。</p> <p>次に、各グループ内で情報の共有を図り、各用語について講師の指名を受けた方が説明した。そのなかで、初年次教育とリメディアル教育の内容 (大学教育の基礎と、高校の補習) と単位認定の有り無しの違い等を知ることができた。</p> <p>このような用語を知らなければ、教育改革等に関する書類を読んでも分からないので、別紙の用語解説集を時間のあるときに確認して欲しいと説明があった。</p> <p>2) 配布プリント 1 の 2. 教学マネジメントとはについて読み解きを行い、各大学で実践していることについてグループで話し合いとなった。(大学は、現在取り組もうとしている部分が多いが、短期大学はその基礎となるデータと組織はある。)</p> <p>3) 配布プリント 1 の 3. 教学マネジメントを推進するにはについて説明があった。</p> <p>プリントにあるように、「学長の指示のもと、IR 推進委員長が統括し、いつの時期に、どの部署で、だれの責任で何をしていくかを明確にする」ことが大切で、一覧表が作成できると良い。つまり、内部質保証 (内部検討過程) として、IR 主導の教学マネジメント体制の構築 (分断データを一つに集約・解析し、課題をまとめ改善計画を提示、実行) が大切であることを、プリント 2 (濱名篤著)、プリント 3 (教育再生実行会議の提言)、プリント 4 (グランドデザイン答申案に係る議論) の資料を通して説明があった。</p> <p>4) 配布プリント 1 の 4. 今後の事務職員に必要なものについて、各人が 3 つ考え、グループで討論した。</p> <p>討論後に、各グループから一番大切だと思えることを一つずつ、代表が発表した。</p> <p>データの確実な入力・共有、データの分析・検証と計画、チャレンジすること、情報の共有 (知ろうとする意識と役割明示化)、教職協働と情報共有、PDCA のためのデータ集約と分析計画の共有などの意見があった。共通して言えることは、共有とチャレンジと言える。</p> <p>5) 最後に配布されたプリント 5 をもとに、理事長からのメッセージとして、事務職員でなく大学職員たる心構えと期待を述べられた。</p>	